

## 他都市におけるメモリアル施設の状況

### 1 概況

#### (1) 東日本大震災関連

(①は平成 30 年 12 月末現在、②は平成 30 年 3 月末現在)

①国と地方公共団体が連携し、3 県(岩手・宮城・福島)に復興祈念公園を整備しており、各公園内(福島県は隣接地)には、伝承施設等も整備される予定。

- ・石巻南浜復興記念公園(宮城)

平成 32 年度末に公園完成予定。園内の施設における展示は現在検討中。

- ・高田松原津波復興祈念公園(岩手)

伝承施設「東日本大震災津波伝承館」の開館に合わせ公園の一部は平成 31 年夏に、公園全体は平成 33 年度当初に供用予定。

- ・福島県(双葉・浪江両町)における復興祈念公園

公園の隣接地に整備する東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設は平成 32 年夏に開所予定。公園については検討中。

②宮城県内においては、本市を含む沿岸 13 市町が、震災遺構や伝承施設等を約 30 か所整備しており、大部分は平成 32 年度末までに完成予定。

#### (2) 阪神・淡路大震災関連

(平成 30 年 12 月末現在)

①阪神・淡路大震災については、国と兵庫県が出資して整備した「人と防災未来センター」と、淡路市が整備した「北淡震災祈念公園野島断層保存館」が代表的な伝承施設。

- ・人と防災未来センター

阪神・淡路大地震の経験を継承するために設置された国内屈指の規模を持つ施設。来館者は毎年約 50 万人に達し、一般公開が始まった平成 14 年度から平成 29 年度末までに延べ 788 万人が訪れた。伝承のみならず、防災に関する研究機能も有する。

- ・北淡震災祈念公園野島断層保存館

兵庫南部地震で出現した野島断層をありのまま保存し、展示する施設。

②上記 2 施設の外、神戸市東遊園地内の「慰霊と復興のモニュメント」をはじめ、兵庫県内を中心に 288 基※の震災モニュメントが設置されている。

※NPO 法人阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」のホームページより

#### (3) 新潟県中越地震関連

(平成 30 年 12 月末現在)

新潟県中越大震災復興基金を活用し、中越メモリアル回廊推進協議会(長岡市・小千谷市・公益社団法人中越防災安全推進機構)が事業主体となり、同機構が運営母体として、長岡市、小千谷市、旧川口町(現長岡市)、旧山古志村(現長岡市)に異なるコンセプトを持った 4 か所のメモリアル拠点施設及び 3 か所のメモリアルパークを整備、「中越メモリアル回廊」を形成している。平成 29 年度は 4 か所のメモリアル拠点施設に延べ約 8 万人が来館。

#### (4) その他

上記の外、自然災害や戦争、テロをテーマとした施設は、国内外に多数存在する。

### 2 各施設の詳細

主な施設の詳細は別表のとおり

東日本大震災の主なメモリアル関連施設(平成30年12月末現在)

※本資料に掲載している施設は国、県および市町村が設置・計画している施設のうち、一部の事例であり、全ての施設を紹介しているものではありません。

(1)施設名	(2)所在地	(3)設置者	(4)運営者	(5)検討過程・スケジュール	(6)完成時期	(7)目的・コンセプト・機能等	(8)施設設備	(9)延床面積	(10)立地特性	(11)備考
■仙台市(参考)										
せんだい3.11メモリアル交流館 	仙台市	仙台市	(公財)仙台市市民文化事業団〔事業委託〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26.12 仙台市震災復興メモリアル等検討委員会報告書提出</li> <li>・H27.1 荒井駅舎内への沿岸部メモリアル施設整備を決定</li> <li>・H27.12 地下鉄東西線開業に合わせて1階部分先行オープン</li> <li>・H28.2 全館オープン</li> <li>・H28.4 運営を(公財)仙台市市民文化事業団へ委託</li> </ul>	H28年2月	東日本大震災の記憶と経験を継承するためのさまざまな取組みを有機的に結び、未来や世界へつないでいくこと目的とする。震災を知り学ぶ場であるとともに、仙台市東部沿岸地域への玄関口の役割も果たす。	1F 交流スペース(震災文庫等) 2F 展示室(常設・企画)、スタジオ(会議室) 屋上 屋上庭園	906.45㎡	・仙台市地下鉄東西線荒井駅舎内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備費 約4,600万円※駅舎建物建設費用除く</li> <li>・H29年度来館者数 約6万人</li> </ul>
震災遺構仙台市立荒浜小学校 	仙台市	仙台市	仙台市〔直営〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26.12 仙台市震災復興メモリアル等検討委員会 報告書提出</li> <li>・H27.2-3 荒浜地区元住民に対しアンケート実施(遺構保存について)</li> <li>・H27.10-11 荒浜地区元住民に対しアンケート実施(校舎の保存・活用方法について)</li> <li>・H28.9-H29.3 校舎保存工事実施</li> <li>・H28.10-H29.3 展示等制作</li> <li>・H29.4 一般公開開始</li> </ul>	H29年4月	被災校舎のありのままの姿と被災直後の写真展示等により、来館者に津波の威力や脅威を実感していただき、防災・減災の意識を高める場とすることを目的としている。	外周・1階2階 被災状況を伝える写真展示 4階 展示室(3.11荒浜の記憶、震災の記憶と明日への備え、荒浜の歴史と文化・荒浜小学校の思い出)、交流活動室 屋上	3,226㎡ (立ち入り可能範囲は1,205㎡)	・津波被災地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備費 約2億4千万</li> <li>・H29年度来館者数 約7万3千人</li> </ul>
■宮城県										
石巻南浜津波復興祈念公園 画像:有識者委員会資料より 	石巻市	国 宮城県 石巻市	未定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26.3 石巻市南浜地区復興祈念公園(仮称)基本構想策定</li> <li>・H27.8 石巻市南浜地区復興祈念公園(仮称)基本計画策定</li> <li>・H27.10~ 石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会開催(H30.5時点で、これまで6回開催)</li> <li>・H32年度末 開園予定</li> </ul>	H32年度末(予定)	宮城県、さらには被災地全体のかなめとなる復興祈念公園として、この地のみならず東日本大震災で犠牲になったすべての生命(いのち)に対する追悼と鎮魂の場となるとともに、津波という自然災害が避けられない我が国において、この震災の記憶と教訓を他の被災地と連携して後世に伝える拠点となり、さらには、かつて市街地であった場所に公園の整備を通じて人々が保ち、人と人との絆、つながりを築いていくことにより、東日本大震災からの復興の象徴となるもの	中核的施設、追悼の広場、祈りの場、避難築山、湿地・沼池、多目的広場、聖人堀再生・活用、震災前の街路網を残した園路	-	・津波被災地域	・国が整備する中核的施設内に震災関連展示の整備を行うため、県では展示設計の検討を行っている。
旧門脇小学校(震災遺構) 写真提供:石巻市 	石巻市	石巻市	未定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H27.6-H27.12 石巻市震災遺構調整会議 開催</li> <li>・H28.7-H29.3 震災遺構検討会議(旧門脇小学校校舎)開催</li> <li>・H30.3 調査・基本設計等業務委託 優先交渉権者 決定(公募型プロポーザル)</li> <li>・H32年度中の工事完了を目指す</li> </ul>	H32年度中工事完了(予定)	津波・火災被害を受けた小学校校舎。隣接する石巻南浜津波復興祈念公園と日和山との連続性を保った「震災伝承エリア」の主要施設と位置付け、3階までの一部を保存。(正面玄関を中心に保存し、校舎両脇の一部を撤去)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎内へのカメラ設置による映像での観察や外部からの目視見学。</li> <li>・特別教室(改修) 震災・防災学習・研究、防災訓練体験学習、資料公開、資料保管機能。</li> <li>・屋内運動場 地域活動、地域住民と見学者の交流</li> </ul>	-	・津波被災地域 ・復興祈念公園近接地	
旧大川小学校(震災遺構) 	石巻市	石巻市	未定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H27.6-H27.12 石巻市震災遺構調整会議 開催</li> <li>・H28.7-H29.3 震災遺構検討会議(大川小学校旧校舎)開催</li> <li>・H30.3 調査・基本設計等業務委託 優先交渉権者 決定(公募型プロポーザル)</li> <li>・H32年度中の工事完了を目指す</li> </ul>	H32年度中工事完了(予定)	校舎全体を保存することとし、周辺については、慰霊・追悼の場としての環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧校舎(内部に立入ることは原則禁止)</li> <li>・広場(慰霊碑、花壇等の設置)</li> <li>・管理棟(約300㎡)</li> </ul>	-	・津波被災地域	
気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 	気仙沼市	気仙沼市	気仙沼市・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館管理運営グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26.5 気仙沼市東日本大震災伝承検討会議 報告書 提出</li> <li>・H30.1-H31.1 震災遺構保存整備工事及び(仮称)震災伝承館整備工事実施</li> <li>・H30.2 気仙沼市震災遺構等管理運営基本計画策定支援業務 委託候補者 決定(公募型プロポーザル)</li> <li>・H30.8 気仙沼市震災遺構等管理運営基本計画策定</li> <li>・H30.9 気仙沼市震災遺構・伝承館条例制定</li> <li>・H31.1 施設の管理運営業務の一部について指定管理者制度を導入</li> <li>・H31.3 オープン</li> </ul>	H31.1	震災時には津波が校舎4階まで達し、現在も流された車が建物内に残る。校舎は震災当時の姿をできる限り残す。	震災遺構(4階まで浸水した南校舎の一部や屋上を見るためのEV整備等)、伝承館(映像シアター、展示室、講和室、研修室、体験交流ホール等)	-	・津波被災地域	
リアス・アーク美術館 写真:美術館HPより 	気仙沼市	宮城県	気仙沼・本吉地域広域行政事務組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H6.10 開館</li> <li>※震災展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」はH25.4~</li> </ul>	H25.4(震災展示)	(震災展示)未だ語られていない震災の記憶を引き出すための「呼び水」と位置付け。単に資料を見る場としてではなく、自分自身の「震災の記憶」を呼び起こし、語り合う場となることを期待している。	企画展示室(震災展示)／アークギャラリー／圏域ギャラリー／シアター／ショップ／レストラン ※震災展示は「被災現場写真」「被災物」「キーワードパネル」「歴史資料」等で構成	4,601㎡ (うち震災展示365㎡)	・気仙沼湾を見下ろす丘陵地	・H29年度来館者数 約4万5千人(震災資料常設展示以外の観覧者等も含む)
<東松島市東日本大震災復興祈念公園内> 震災復興伝承館 祈念広場 震災遺構(旧野蒜駅プラットホーム) 	東松島市	東松島市	(株)奥松島公社〔事業委託〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H28.10 震災復興伝承館オープン、運営を(株)奥松島公社へ委託</li> <li>・H29.11 復興祈念公園 完成(公園内に旧野蒜駅プラットホーム、犠牲者約1100人の名前が刻まれた慰霊碑有)</li> </ul>	H28.10	震災により亡くなられた方への追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓を後世に伝承するため、震災遺構(JR仙石線旧野蒜プラットホーム)を中心として、祈念公園を整備し、慰霊碑を設置。また、東日本大震災で被災したJR仙石線の旧野蒜駅舎を改装整備した震災復興伝承館では、震災当時の様子や復興の過程を展示。	祈念広場／震災遺構／震災復興伝承館 ※伝承館の機能 1階 施設内及び周辺地域のインフォメーションコーナー 2階 展示スペース(東松島市の被害状況や復旧、復興過程の記録写真パネル展示、震災アーカイブ映像の上映(座席数40))	-	・津波被災地域 ・旧野蒜駅舎活用	
震災遺構旧中浜小学校 写真:山元町HPより 	山元町	山元町	未定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26.3、H26.5 震災伝承等に関する町民アンケート実施</li> <li>・H26.3-H27.1 山元町震災伝承検討委員会開催(計5回)</li> <li>・H27.1 震災伝承及び震災遺構の保存・活用に関する提言書 受理</li> <li>・H29.2 山元町旧中浜小学校震災遺構整備事業基本計画策定&lt;以下予定&gt;</li> <li>・H30年度中 改修設計等業務委託、展示等設計業務委託実施</li> <li>・H31年度中 改修工事実施</li> <li>・H32年度 公開予定</li> </ul>	H32年度中	津波による甚大な被害や避難の状況などを伝承し、東日本大震災の風化防止と防災意識の向上を目的とする。	計画中	-	・津波被災地域	



東日本大震災の主なメモリアル関連施設(平成30年12月末現在)

※本資料に掲載している施設は国、県および市町村が設置・計画している施設のうち、一部の事例であり、全ての施設を紹介しているものではありません。

(1)施設名	(2)所在地	(3)設置者	(4)運営者	(5)検討過程・スケジュール	(6)完成時期	(7)目的・コンセプト・機能等	(8)施設設備	(9)延床面積	(10)立地特性	(11)備考
■福島県										
福島県における復興祈念公園 図:復興祈念公園基本計画より 	双葉町 浪江町	国 福島県	未定	H29.7 福島県における復興祈念公園基本構想策定(国・県) H29.10-H30.3 福島県における復興祈念公園基本計画検討調査有識者委員会開催(計3回) H30.7 福島県における復興祈念公園基本計画策定(国・県) H30.11- 福島県における復興祈念公園有識者委員会開催		双葉・浪江両町にまたがるエリア(中野・両竹地区)に整備。主な空間機能として「被災地全体の追悼と鎮魂の場」「震災の原因を知り、再生の息吹を感じる場」「震災の脅威、被害を伝え、教訓を学ぶ場」「ふるさとと人々を結ぶ場」としている。	検討中	-	・津波被災地域 ・一部避難指示解除準備区域	
<福島県における復興祈念公園に隣接> 東日本大震災・原子力災害 アーカイブ拠点施設 図:第5回イノベーション・コースト 構想推進本部会議資料より 	双葉町	福島県	未定	H25.12-H26.2 東日本大震災等記録保存活用検討委員会開催(計3回) H26.1-H27.3 福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想のなかでの検討会開催 H27.9 東日本大震災・原子力アーカイブ拠点施設有識者会議による報告書提出 H29.3 東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設 基本構想策定 H29.6 アーカイブ拠点施設(仮称)に関する資料収集ガイドライン策定 H29.6 公募型プロポーザルにより基本計画・実施設計事業者決定 H30.12 建屋整備工事請負契約 H32夏 拠点施設開所予定	H32年度中	アーカイブ拠点施設は、世界初の甚大な複合災害の記録と教訓を①後世に継承し世界と共有する、②防災・減災、③復興の加速化への寄与を基本理念に掲げる。 震災資料の収集・保存、調査・研究、展示・プレゼンテーション、研修の活動を行う。	・主要用途 展示施設 ・展示エリア、サービス・収蔵エリア、管理・研究エリア、研修・会議エリア、共用エリア等	約5,200㎡ (地上2階建)	・津波被災地域 ・避難指示解除準備区域	
■岩手県										
高田松原津波復興祈念公園 図:第3回有識者委員会資料より 	陸前高田市	国 岩手県 陸前高田市	未定	H26.6 高田松原津波復興祈念公園基本構想 策定 H27.8 高田松原津波復興祈念公園基本計画 策定 H27.8-H28.9 高田松原津波復興祈念公園有識者委員会(基本設計を検討) ※高田松原津波復興祈念公園有識者委員会の下部に「空間デザイン検討委員会」「協働体制検討WG」「震災津波伝承施設検討委員会」を位置付けての検討体制。 H29.3 高田松原津波復興祈念公園起工式開催(国、岩手県、陸前高田市の共催) H31夏 東日本大震災津波伝承館等の開館時期にあわせて公園の一部区域の供用を開始(予定)	H33年度当初の全面供用(予定)	基本理念を「奇跡の一本松が残ったこの場所で 犠牲者への追悼と鎮魂の思いとともに 震災の教訓とそこからの復興の姿を 高田松原の再生と重ね合わせ未来に伝えていく」と設定。	公園内には、国営追悼・祈念施設(仮称)、重点道の駅「高田松原」(東日本大震災津波伝承館、地域振興施設を含む)、運動施設(高田松原公園災害復旧)、奇跡の一本松・タピック45・気仙中学校等の遺構が含まれる。	-	・津波被災地域	
<高田松原津波復興祈念公園内> 東日本大震災津波伝承館 図:H30.12 県議会復興特別委員会資料より 	陸前高田市	岩手県	岩手県 〔直営を予定〕	H27.9- 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会(H30.12時点で、これまで6回開催) H28.6 震災津波伝承施設展示等基本計画策定 H30.3 施設の正式名称を「東日本大震災津波伝承館」と決定 H30.8 施設愛称募集(H30.4-5)を経て「いわて TSUNAMI メモリアル」に愛称決定 H31.8~9 ラグビーワールドカップ2019™釜石開催前に開館予定	H31.8~9(予定)	・東日本大震災津波の事実と教訓の世界そして未来への伝承 ・復興に立ち上がる姿と感謝の発信 ・三陸沿岸地域へのゲートウェイ機能を有する施設として整備 ・屋外の震災遺構等を震災被害の実物展示として活用	1F 展示スペース(常設展示・企画展示)、セミナー室(公園内の他施設との共用)	1,475㎡(震災津波伝承施設部分のみ)	・津波被災地域	

他の災害等に関する主なメモリアル関連施設(平成30年12月末現在)

※本資料に掲載している施設は他の災害等に関する施設のうち、一部の事例であり、全ての施設を紹介しているものではありません。

施設概要									備考
(1)施設名	(2)所在地	(3)設置者	(4)運営者	(5)目的・コンセプト・機能等	(6)施設設備	(7)入館料	(8)延床面積	(9)立地特性	
<b>&lt;自然災害を扱う展示施設&gt;</b>									
<b>■雲仙普賢岳噴火(平成2~8年)</b>									
雲仙岳災害記念館 がまだすドーム (H14開館) 写真:施設HPより	島原市	長崎県	指定管理:公益財団法人雲仙岳災害記念財団	雲仙・普賢岳噴火災害の後世へ伝承及び火山関係資源の活用を図る。	常設展示/シアター/こどもジオパーク/ワンダーラボ/ジオパーク情報スペース/ショップ/カフェ/屋外メモリアルガーデンなど	大人1,000円 中学生700円 小学生500円	5,904㎡	噴火土砂で埋立てた土地	・整備費 約43億円。 ・H29年度 来館者数 約8万7千人 ・展示は、伝承ゾーン(火山災害の実態とその脅威、また復興の姿や火山がもたらす恵みについて学ぶゾーン)、学習ゾーン(体験プログラムによって、火山や防災を幅広く学べるゾーン)に分かれている。
旧大野木場小学校 被災校舎 (H11開館)	南島原市	国、南島原市(旧深江町)	土地・建物の所管は国。施設維持管理は南島原市で所管。	大火砕流により全焼した小学校。人的被害はなかったものの、災害の驚異と自然災害のすざまじさを継承する火砕流遺構として保存している。	校舎(フェンス越しに見学) ※隣接する国土交通省所管「大野木場砂防みらい館」内に、パネル展示、映像上映等を行っている。	無料	—	雲仙普賢岳の裾野	・被災校舎の強度と耐久性等調査費 7,657千円 被災校舎保存工事費 43,575千円 ・H29年度 来館者数 30,710人 ※大野木場砂防みらい館実績
<b>■阪神・淡路大震災(平成7年1月17日)</b>									
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター (西館H14.4/東館H15.4開館) 写真:施設より提供	神戸市	兵庫県	指定管理:公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構	阪神・淡路大震災の経験と防災の重要性等の後世への継承及び防災に関する知識・技術の普及を図る。	震災追体験フロア/震災の記憶フロア/防災減災体験フロア/水と減災について学ぶフロア/こころのシアター/ガイダンスルーム/資料室/レストラン/ミュージアムショップなど	大人600円 小中学・高校生無料	18,755㎡	神戸東部新都心(HAT(Happy Active Town)) 鉄工所跡地を震災復興のモデル地区として整備	・整備費 西館約60億円 東館約61億円 平成29年度 来館者数 約50万人
北淡震災記念公園 野島断層保存館 (H10.4開館) 写真:施設より提供	淡路市	旧北淡町(現淡路市)	株式会社ほくだん(第3セクター)	兵庫南部地震で出現した野島断層をありのままに保存し、地震の凄まじさ・脅威と地震への備えの大切さを伝える。	断層保存館/震災体験館/被災家屋/活断層ラボ/セミナーハウス/レストラン・物産館/モニュメント	大人700円 中学生300円 小学生250円	2,815㎡ (断層保存館)	野島断層上	・整備費 約40億円。 ・H29年度 来館者数 135,820人
<b>■中越地震(平成16年10月23日)</b>									
長岡震災アーカイブセンター きおくみらい (H23.10開館) 写真:施設HPより	長岡市	公益社団法人中越防災安全推進機構	公益社団法人中越防災安全推進機構	中越地震の教訓や知見を蓄積・発信するアーカイブ拠点	被災地航空写真/シアター/多目的ホール/図書コーナー	無料	700㎡	長岡駅前	・整備費 約168,274千円。 ・H29年度 来館者数 16,313人
おぢや震災ミュージアム そなえ館 (H23.10開館) 写真:施設HPより	小千谷市	公益社団法人中越防災安全推進機構	公益社団法人中越防災安全推進機構	震災体験の伝承と防災学習研修施設	3D×4D発災シアター/被災～避難～復旧～復興～防災学習ゾーン/地震動シミュレーター/防災レクチャールームA～D/当時の仮設住宅移築展示	無料(体験は有料の場合あり)	929㎡ (H29、拡張)	小千谷市内(駅から車で10分)	・整備費 約122,936千円。(H29リニューアル 61,638千円) ・H29年度 来館者数 22,910人 ・地震発生から部屋ごとに時系列(被災～避難～復旧/復興)で示す展示構成
川口きずな館 (H23.10開館) 写真:施設HPより	長岡市川口(旧川口町)	公益社団法人中越防災安全推進機構	委託:特定非営利法人くらしサポート越後川口	震災で気付いた人と人の「きずな」を伝える拠点	絆カウンター/復興のあゆみ(年表)/展望テラス ※町民の震災体験談をテーブル上のiPadで閲覧可能	無料	150㎡	・町(当時)所有ゴルフ場センターハウスを改修 ・川口運動公園内	・整備費 約82,600千円。 ・H29年度 来館者数 10,829人 ・交流拠点を機能のメインとしている。
やまこし復興交流館 おらたる (H25.10開館) 写真:施設より提供	長岡市(旧山古志村)	公益社団法人中越防災安全推進機構	委託:NPO法人中越防災ボランティア	震災から再生した山の暮らし(文化・生業)の伝承、地域経営拠点	展示スペース/地形模型シアター/仮設集会所の再現/大ホール/交流スペース	無料	約1,100㎡	旧山古志会館を改修(長岡市山古志支所隣)	・整備費 約126,519千円。 ・H29年度 来館者数 30,288人 ・H30年12月～H31年3月 展示リニューアル工事中。




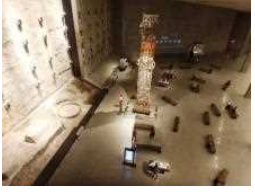
他の災害等に関する主なメモリアル関連施設(平成30年12月末現在)

※本資料に掲載している施設は他の災害等に関する施設のうち、一部の事例であり、全ての施設を紹介しているものではありません。

施設概要									備考	
(1)施設名	(2)所在地	(3)設置者	(4)運営者	(5)目的・コンセプト・機能等	(6)施設設備	(7)入館料	(8)延床面積	(9)立地特性		
■中越沖地震(平成19年7月16日)										
かしわざき市民活動センター 中越沖地震メモリアル まちから (H27.11開館) 写真:施設より提供	柏崎市	柏崎市	公益社団法人 中越防災 安全推進機 構	柏崎の「歴史・文化」「市民 力」を育て、震災の教訓を継 承する	交流活動ルーム／私たちの まちづくりドキュメント／中越 沖地震情報ルーム／中越沖 地震地下シアター	無料	約1,200㎡ (うち123㎡ がメモリアル 施設専用ス ペース)	国登録有形 文化財の旧 公会堂を改修	・整備費 約54,582千円。 ・H29年度 来館者数 16,404人 ・市民活動サポート施設との併設	
■熊本地震(平成28年4月)										
熊本地震 震災ミュージアム (回廊型フィールド ミュージアム構想) 図:熊本地震災 ミュージアムのあり方 検討有識者会議 報告書より	熊本県	-	-	震災遺構等を活用した震災 ミュージアムの実現により、 熊本地震の教訓等を確実に 後世に伝承し、本県のみなら ず国内外の防災・減災の対 応力の強化を図るとともに、 災害に強く、誇れる資産を次 代につなぎ、夢にあふれる新 たな熊本の創造を目指す。	・震災遺構等(有形、無形) ・県が広域的な視点から整備 する「中核拠点」(県防災セン ター、東海大学阿蘇キャン パス)と市町村がそれぞれの視 点から情報を発信するため に整備する「地域の拠点」な ど	-	-	-	・H30.3に「熊本地震災ミュージアムの実現に向けた基本方針」を策定し、広範囲に出現した震災遺構や熊本県が整備 する中核拠点、関係市町村(5市町村 H30.12時点)がそれぞれの視点から整備する地域の拠点等とともに観光地 や観光施設といった熊本地震の爪痕を遺すものをつなぎ巡る回廊型のフィールドミュージアムを実現するため、現在 取組を進めているところ	
<戦争・テロ・その他複合事項を扱う展示施設>										
■関東大震災(大正12年)・東京大空襲(昭和20年)										
東京都横網町公園 復興記念館 (S6開館)	東京都	東京都	公益財団法 人 東京都慰 霊協会	復興記念館は、関東大震災 の惨禍を永く後世に伝え、ま た官民協力して焦土と化した 東京を復興させた当時の大 事業を永久に記念するため、 東京都慰霊堂の付帯施設と して建設。	1F関東大震災展示 2F関東大震災展示+東京大 空襲展示 (いずれもパネル・遺物・当時 の資料など)	無料	1,177㎡	関東大震災 時約4万人の 避難民が焼 死した場所 (陸軍被服廠 跡地)	・整備費 約112,353円。 ・H29年度 来館者数 28,261人 ・改修工事のためH31年2月に全館休館、3月中旬からは全面開館予定。	
■広島市への原爆投下(昭和20年8月6日)										
広島平和記念資料館 (本館S30開館/ 東館H6開館) 写真:施設より提供	広島市	広島市	公益財団法 人 広島平和 文化センター	被爆者の遺品や被爆の惨状 を示す写真や資料を収集・展 示するとともに、広島の被爆 前後の歩みや核時代の状況 などについて紹介していま す。	・本館／リニューアル工事中 ・東館／2-3F(常設展示、被 爆者証言ビデオコーナー等) 1F(ショップ、企画展示室、情 報コーナー、ビデオシアター、 公園休憩所・売店等) B1F(特別展示室、情報資料 室、メモリアルホール、会議 室)	大人200円 高校生100円	本館 1,615㎡ ／東館 10,098㎡	原爆爆心地 付近	・H29年度 来館者数 約168万人 ・本館は改修工事のため、H29.4～閉館中。H31年4月25日にリニューアルオープン予定。	
■長崎市への原爆投下(昭和20年8月9日)										
長崎原爆資料館 (H8年開館) 写真:施設HPより	長崎市	長崎市	長崎市 (直営。館内 案内は事業 委託:公益財 団法人長崎 平和推進協 会)	被爆の惨状を示す資料を保 存・展示するとともに、原爆が 投下されるに至った経過や 核兵器開発の歴史などを展 示。	1F(図書室、ビデオコーナー) B1F(平和学習室、ショップ、 喫茶) B2F(常設展、企画展、収蔵 室)	大人200円 小中高生100 円	7,950㎡	原爆爆心地 付近	・整備費 約1億5千万円。 ・H29年度 来館者数 611,394人 ・H31年度9月から施設の維持管理に係る部分のみ指定管理者制度導入予定(事業などソフト面は直営)。	
国指定史跡長崎原爆遺跡 旧城山国民学校校舎 (H11開館)	長崎市	長崎市	施設維持管 理は長崎市 で所管。(常 駐者は指定 管理:城山小 学校被爆校 舎平和発信 協議会)	被爆後も校舎として使用して いたが、被爆校舎を新校舎 建設に伴い、一部を被爆遺 構として保存。現在、内部を 一般公開し、被爆当時の写 真パネルなどを展示。	展示室	無料	-	爆心地より 500m	・整備費 約2,300万円(H28外壁補修等) ・維持管理費 約3,499千円(H30予算) ・H29年度 来館者数 31,684人 ・被爆校舎に隣接して現在の城山小学校がある ・文化財登録に伴い、H27.4から長崎市原爆資料館の所管となる。また、国史跡指定を受け、H29.4から指定管理者制 度導入され、城山小学校被爆校舎平和発信協議会が常駐。	

他の災害等に関する主なメモリアル関連施設(平成30年12月末現在)

※本資料に掲載している施設は他の災害等に関する施設のうち、一部の事例であり、全ての施設を紹介しているものではありません。

施設概要									備考
(1)施設名	(2)所在地	(3)設置者	(4)運営者	(5)目的・コンセプト・機能等	(6)施設設備	(7)入館料	(8)延床面積	(9)立地特性	
■ホロコースト									
ワシントン・ホロコースト ミュージアム (1993年開館) 	アメリカ合衆国ワシントンD.C.	連邦政府	—	ナチス・ドイツによるホロコーストについての博物館。資料と映像、収容所の人々が着ていた服、内部の悲惨な生活のフィルムなどの映像もある。	常設展示／企画展示スペース／ショップ／カフェなど	無料	—	記念碑・博物館群が集中するナショナルモール隣接	・展示室入口でホロコースト犠牲者のIDカードが渡される。どこで生まれ、どう育ち、そして亡くなったのか生き残ったのかを、一人の人のストーリーを手に取りながら、展示を見ていく形。
■米国同時多発テロ									
9/11メモリアル ミュージアム (2014年5月開館) 	アメリカ合衆国ニューヨーク州	連邦政府・ニューヨーク州	民間非営利組織	1993年2月26日および2001年9月11日に発生したテロの犠牲者を記憶にとどめ、追悼し、多大な犠牲者が出たこの地を神聖なる場所として尊厳を保つことを目的に開設。	常設展示／企画展示／証言レコーディングブース／講堂／ショップ／カフェなど	\$24	—	ワールドトレードセンター跡地	・ワールドトレードセンター ツインタワー跡地地下部分が、ミュージアム用地となっている